

オトワファーム 株式会社

東京で何不自由なく育ち、就職氷河期の中で内定も得て、いよいよ社会人になろうとしていた大学4年生に突如、「化学物質過敏症」という疾患に罹患してしまいました。化学物質過敏症とは、その名の通り化学物質に反応し健康被害を引き起こされる疾患です。この疾患で引き起こされる健康被害には個人差がありますが、私の主な症状は、化学物質に反応して起こる吐き気でした。それまで使用していた香水、整髪料も使えなくなり、頭髮のカラーリングもできなくなりました。それだけではなく、周囲の人が吸う煙草の煙、家の周りから壁を塗るペンキ臭、道路工事から漂ってくる匂い等など、内的要因だけではなく、外的要因でも気



大豆の脱穀作業をする筆者 2011年



雪が降り積もる畑にて 2011年

分が悪くなり、毎日活性炭入りのマスクをして何とか呼吸する日々。それは仕事することもままならなくせっかく入社した会社も本採用の前に解雇になりました。

会社を解雇されてからは、何をやる気も起こらず、家に閉じこもる日々でした。そんなある日のことです。東京の都心を離れ奥多摩に足を伸ばした時、マスク無しでも過ごせる自分がいることに気がきました。奥多摩は東京の中でも空気が綺麗で自然が多く残る場所、そこではかつての元気な自分がいたのです。

その経験から自分が生きる場所は、自然が豊かな場所なのだと確信しました。ただ東京で過ごした時間が余りにも長く、田舎暮らしもしたことがない自分は、いろいろ調べてみるもの、東京を離れる決心が着かないままでい

ました。そんなある日、新聞広告で10日間の農業体験ができる募集の広告が飛び込んできたのです。体力も経験もなく、得たものと言えば無駄に重ねた年の数だけ、不安だらけでしたが一念発起してエントリーしました。時は2009年、30歳になる目前の春先でした。

農業体験の受け入れは、山梨県北杜市にある農業団体、不安だらけでしたが、意を決して参加しました。その十日の間でやったことは、雑草で荒れ果てた山奥の田畑を鎌などでひたすら開墾して、野焼きをする毎日。鋤を使用して、畑を耕したりするのだろうとイメージしていた自分と大きく乖離する作業内容で、10日後、心身共に疲れ果てて東京に戻りました。

ただ東京に戻ってもまた従来と変わらない日々。そんな時、お世話になった担当者の方からボランティアでやってみないかと連絡がありました。1ヶ月やって駄目ならまた東京に帰ればいいやと、そんな軽い気持ちで戻ったのですが、開墾した田畑に栽培作物が育ち始まる姿にのめり込み、そのまま3年が過ぎました。

そしてオトワファームに声を掛けてもらい、静岡にやってきました。初めて畑に立ってから7年の月日が経っています。

(2016年11月記)

山梨県北杜市 2009年



オトワファーム株式会社 小俣 洋

就農:平成23年1月 畑の場所:富士市 岩淵
栽培面積:畑130a 栽培作物数:80種類
主力作物:温州ミカン、キウイフルーツなど
連絡先:terrassedefuji.blog.fc2.com/